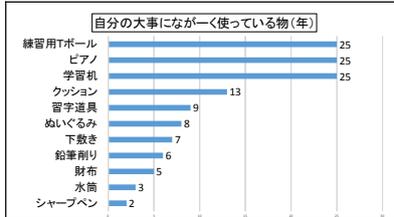


授業実践

(I) 第4時：学習目標：自分も消費者の1人だということを自覚し、実践内容を考える。

《ALの視点》 主：主体的な学び 対：対話的な学び 深：深い学び

| 学習活動 | 形態 | 教師の支援と手立て | 評価と方法 |
|---|---|--|-------|
| 1 前時の授業を振り返る。 | 斉 | | |
| <p>本時のめあて：循環型社会をつくるために、中学生の自分にできることは何だろう。</p> | | | |
| <p>2 消費者の責任について考える。</p> <p>「循環型社会をつくるためには、中学生の私たちにも、消費者としての責任があるだろうか？あるとすればどんな責任か。」</p> | <p>個 ↓ 班 ↓ 斉</p> <p>対 深</p> | <p>○考えるポイントを絞るため、消費者の責任については、購入時に関する責任だけ扱った。</p> <div data-bbox="759 725 1265 1126" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><生徒から出た考え></p> <p>責任はない（2名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は服は無駄にしていないと思うから ・買ってくるのはほとんど親 <p>責任がある（29名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買ってもらっても使っておるのは自分だから ・循環型社会について学び、次の世代に受け継いでいく責任 ・本当に必要か考える責任 </div> <p>○「ドイツでの2ユーロのTシャツ自動販売機」の動画を見せ、消費者市民社会をイメージさせた。</p> <p>○なぜこんなに安価なのか投げ掛け、低賃金労働・児童労働の問題を取り上げた。</p> <div data-bbox="780 1442 1243 1637" style="text-align: center;">  </div> <p><ファストファッションの背景にある事実を投げ掛けているところ></p> <p>○循環型社会をつくるには、今の自分の生活を優先させるのではなく、誰かのことを考えて消費生活することが大切であることに気付かせた。</p> <p>○新興国等に古着を送ることが最善の</p> | |



<プレゼンテーションソフト資料>

3 自分の消費生活の課題を整理し、実践内容を考える。
「循環型社会づくり（4R）のためにはできることを実践しよう。」

●消費者の責任を理解し、自分にはできることを考え、実践しようとする。

4 本題材の学習を振り返る。

個
↓
斉

主

方法かを投げ掛けて生徒の思考を揺さぶった。
○佐賀市の資源ごみの分別方法を確認し、具体的な実践をイメージさせた。
○「我が家の大事に‘ながーく’使っている物調べ」結果を知らせ、これからの実践の意欲付けを図った。



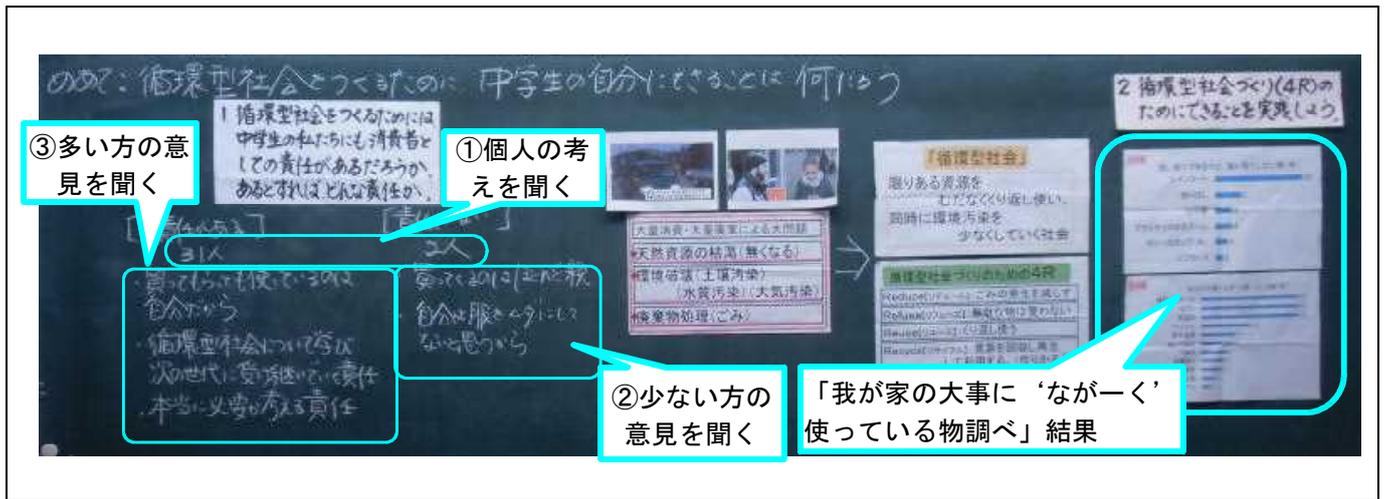
<プレゼンテーションソフト資料>

○中学1年生にもできることはないか投げ掛け、当事者意識をもたせた。
○循環型社会づくり（4R）に絞って家族にも協力してもらうための対策を考えさせることで、題材のねらいを明確にした。

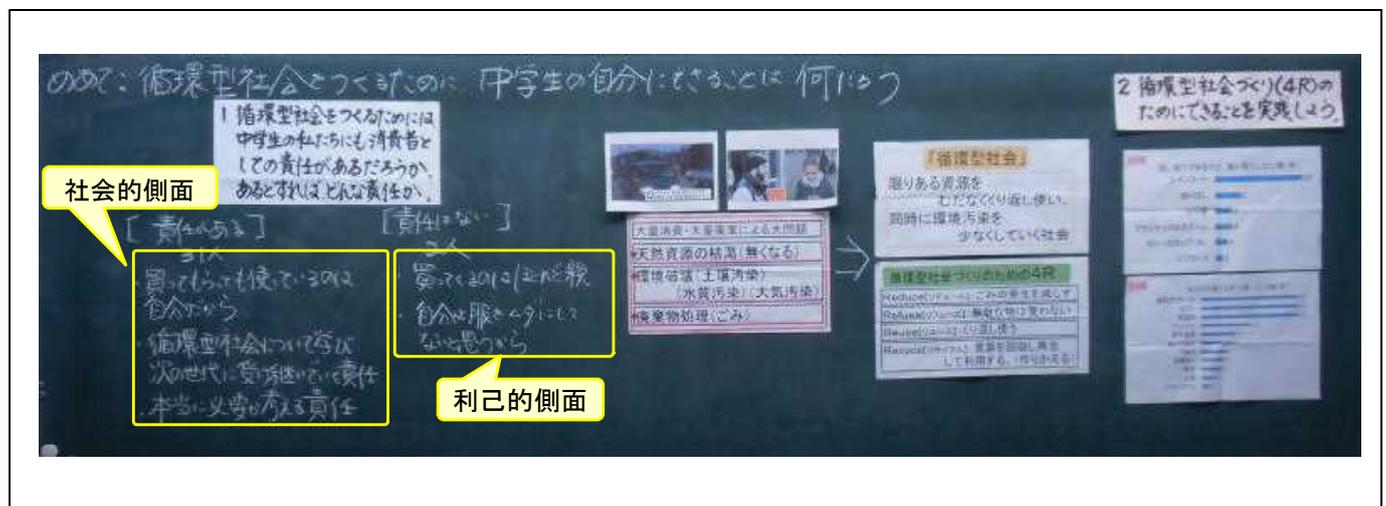
<生徒の振り返り>

- ・物の一生を大切にしたい。自分の物じゃなくても大切にしたい。
- ・物がないと生活できない。使って使って最後まで使い切ろうと思う。
- ・日本にもこんな自動販売機を置いたらいい。
- ・自分がしていることが環境によいか考える。
- ・循環型社会を次の世代に伝えていかなければ後悔する。現代でやっていきたい。
- ・世界には朝早くから夜遅くまで働いても少ない賃金しかもらえない人がいる。大切にしたい。
- ・教室の分別用のごみ箱2つ。できていない現実。みんなで頑張ろう。

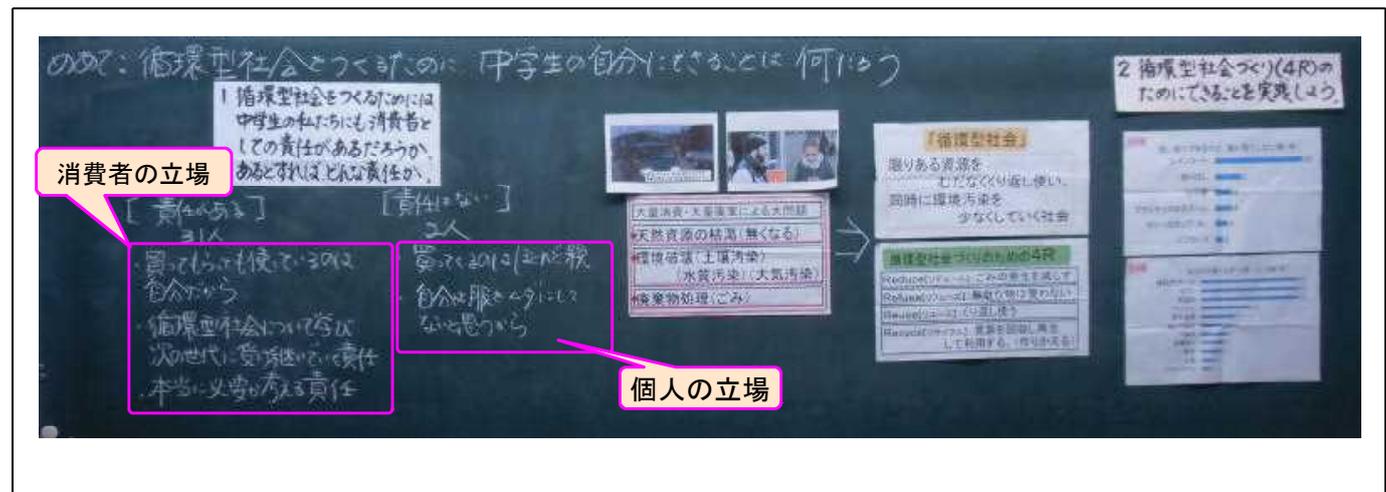
循環型社会の実現に向けて自分にはできることを実践しようとしている。【関心・意欲】(行動観察、ワークシート) 自分や家族の消費生活の課題の解決方法を工夫している。【工夫・創造】(ワークシート)



資料1 4時目板書



資料2 生徒から出た多面的な見方



資料3 生徒から出た多角的な見方